

中央大学のウェルビーイング研究 が築く 持続的な幸福社会

中央大学理工学部は、1949年に発足し、70年以上の歴史を持ち、創立当初からの伝統を引き継いだ研究力の高さは国内外に知れ渡っています。また、2026年4月から「基幹理工学部」「社会理工学部」「先進理工学部」の3学部再編により、新たな体制に移行します。

今回は、持続可能な幸福社会の実現に向けて本学で取り組まれているウェルビーイングに関する研究について、4名の講師をお迎えし、理工学、機械工学、情報学など、多角的な視点から紹介していただきます。

日頃よりウェルビーイングに高い関心をお持ちの企業の皆様に、また中央大学との産学連携を希望する皆様のビジネスの一助となりますようご案内申し上げます。

◆ 講演

(1) 「データサイエンスの切り口からみたウェルビーイングの過去・現在・未来」

講師：竹内 文乃 氏 中央大学 理工学部 人間総合理工学科 准教授

講演概要：データサイエンスによるウェルビーイング研究は、1854年の感染症対策に始まり、時代と共に進化してきました。そして未来へ。大阪・関西万博ヘルスケアパビリオンの事例を交え、これからのウェルビーイングを皆さまと共に考えたいと思います。

(2) 「未来の都市のウェルビーイングを支える先端緑化技術」

講師：原田 芳樹 氏 中央大学 理工学部 人間総合理工学科 准教授

講演概要：未来の都市デザインを支えるため「ヒト」と「環境」の両面から研究を展開しています。都市緑化の景観や音が持つストレス緩和効果や認知機能向上効果に加え、廃棄物で作る人工土壌技術やヒートアイランド現象を抑制する屋上緑化技術等の研究を進めています。

(3) 「ウェルビーイングに貢献するロボティクスの実現に向けて -自動化の先にある価値創出-」

講師：新妻 実保子 氏 中央大学 理工学部 精密機械工学科 教授

講演概要：本講演では、ウェルビーイングを「結果」ではなく「人がよりよく活動し、関係を築くプロセス」と捉え、ロボティクスがどのように貢献できるかを紹介します。コミュニケーション支援、協働作業ロボット等の研究例を通じ、人の置き換えではなく、活動や関係性を支える技術について紹介します。

(4) 「リモートワークと飲酒行動がもたらすウェルビーイングへの影響」

講師：飯尾 淳 氏 中央大学 国際情報学部 国際情報学科 教授

講演概要：働き方と飲酒行動という一見あまり関係ない概念を軸に据えてそれらとウェルビーイングの関係に関するインターネット調査を実施しました。6,000件を超える回答を分析したところ、それぞれの関係性について興味深い関係が明らかになりました。本講演ではその概要をご紹介します。

◆ 交流会 参加者全員による立食形式の懇親・名刺交換会

日時：2026年3月4日(水) 13:00~18:20

会場：対面式(中央大学 後樂園キャンパス 3号館 14F)

および Webex によるオンライン配信

定員：対面式は先着50名

参加費：無料

主催：中央大学 理工学研究所 / りそな中小企業振興財団